



詳細設定

この章では、[P.65](#) の「[システム コンポーネントの設定](#)」の項で説明した初期のインストールおよび設定プロセスの後でアプリケーション パラメータを変更するための詳細設定の手順について説明します。その前出の章には、この章に記載されていないコマンドが含まれています。

詳細設定の手順には、次の項目が含まれています。

- [システム エンジン パラメータの設定 \(P.154\)](#)
- [アプリケーション パラメータの設定 \(P.156\)](#)
- [アプリケーションに対する複数のトリガーの設定 \(P.159\)](#)
- [ホスト名の設定 \(P.163\)](#)
- [DNS サーバの設定 \(P.164\)](#)
- [NTP サーバの設定 \(P.166\)](#)
- [外部 syslog サーバの設定 \(P.170\)](#)
- [クロック タイム ゾーンの設定 \(P.172\)](#)

システム エンジン パラメータの設定

Cisco Unity Express のシステムおよびサブシステム全体で使用されるパラメータを設定するには、この手順を使用します。このパラメータ セットは、Cisco Unity Express を構成する基本ソフトウェア プログラム (エンジン) に影響します。

Release 1.1.2 では、使用可能なパラメータは **maxsteps** だけです。スクリプトは、この値を使用して、アプリケーション スクリプトで実行可能な手順数を制限します。たとえば、無制限ループの中でお客様が同じメニュー選択に戻されるようなスクリプト エラーが発生した場合、**maxstep** 値に達すると、システムはループを停止します。同様に、スクリプトの手順の中にネスト化された手順がある場合、スクリプトを実行したときにその手順が **maxstep** 値を超えると、システムはスクリプトを停止します。この状態になると、発信者には、システムが使用不可であることを示すシステム メッセージが再生されます。



(注) スクリプトの手順の詳細については、『[Cisco Unity Express Script Editor Guide](#)』を参照してください。

前提条件

システム エンジン パラメータを設定するには、次の情報が必要です。

- 実行できるスクリプト手順の最大回数

概略手順

1. **config t**
2. **ccn engine**
3. **default parameter**
4. **maxsteps steps-limit**
5. **end**
6. **exit**
7. **show ccn engine**
8. **copy running-config startup-config**

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# config t</code> | |
| ステップ 2 | <code>ccn engine</code> | Cisco Communication Network (CCN) エンジン設定モードを開始します。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config)# ccn engine</code> | |
| ステップ 3 | <code>default parameter</code> | (オプション) パラメータをシステム デフォルト値に設定します。maxsteps のデフォルト値は 1000 です。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config-engine)# default maxsteps</code> | |

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 4 | <code>maxsteps steps-limit</code> se-10-0-0-0(config-engine)# maxsteps 200 | テレフォニー アプリケーションの手順の最大数を指定します。スクリプトの手順の詳細については、『 Cisco Unity Express Script Editor Guide 』を参照してください。 |
| ステップ 5 | <code>end</code> se-10-0-0-0(config-engine)# end | Cisco Communication Network エンジン設定モードを終了します。 |
| ステップ 6 | <code>exit</code> se-10-0-0-0(config)# exit | 設定モードを終了します。 |
| ステップ 7 | <code>show ccn engine</code> se-10-0-0-0# show ccn engine | 設定された Cisco Communication Network エンジンパラメータを表示します。 |
| ステップ 8 | <code>copy running-config startup-config</code> se-10-0-0-0# copy running-config startup-config | コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。 |

例

次の例は、`show ccn engine` の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn engine

Maximum number of Tasks:          0
Maximum number of Steps:         200
se-10-0-0-0#
```

アプリケーションパラメータの設定

P.65 の「システムコンポーネントの設定」の項では、Cisco Unity Express に付属しているアプリケーションのパラメータを設定する方法について説明しました。ここでは、自動受付アプリケーションのスキプトのパラメータを設定する方法について説明します。

前提条件

- アプリケーション名。
- アプリケーションのスキプト名。
- Maxsessions 値。この値の割り当てに関するガイドラインについては、P.68 の「アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有」を参照してください。
- スクリプトに必要な各パラメータの名前と値。これらの要素は、作成したスキプトによって異なる場合があります。



(注) スクリプトの作成に関する詳細については、『Cisco Unity Express Script Editor Guide』を参照してください。

概略手順

1. **config t**
2. **ccn application full-name**
3. **default parameter**
4. **description "text"**
5. **maxsessions number**
6. **no parameter**
7. **parameter name "value"**
8. **script name [description "description"]**
9. **enabled**
10. **end**
11. **exit**
12. **show ccn scripts**
13. **show ccn application**
14. **copy running-config startup-config**

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| ステップ 2 | <code>se-10-0-0-0# config t</code> <code>ccn application full-name</code> <code>se-10-0-0-0(config)# ccn application myscript</code> | 設定対象のアプリケーションを指定し、設定モードを開始します。 <i>full-name</i> 引数にはアプリケーションの正式名を使用します。 |

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|---------|--|--|
| ステップ 3 | <p><code>default parameter</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# default maxsessions</pre> | <p>(オプション) 次の説明に従ってアプリケーションパラメータをリセットします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default description : アプリケーションの名前を使用します。 • default enabled : アプリケーションを使用可能にします。 • default maxsessions : Cisco Unity Express モジュール上のポートの数を使用します。ポートの最大数については、P.16 の「ソフトウェアライセンスおよび工場で設定される制限」を参照してください。 • default script : 効果なし。 • default parameter : スクリプトのデフォルト値を使用します。 |
| ステップ 4 | <p><code>description "text"</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# description "my application"</pre> | <p>(オプション) アプリケーションの説明を入力します。テキストは二重引用符で囲みます。</p> |
| ステップ 5 | <p><code>maxsessions number</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# maxsessions 8</pre> | <p>このアプリケーションに同時にアクセスできるユーザの数を指定します。この値の割り当てに関するガイドラインについては、P.68 の「アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有」を参照してください。</p> |
| ステップ 6 | <p><code>no parameter</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# no description</pre> | <p>(オプション) スクリプト値を削除するか、無効にします。</p> |
| ステップ 7 | <p><code>parameter name "value"</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# parameter MaxRetry "5" se-10-0-0-0(config-application)# parameter WelcomePrompt "Welcome.wav"</pre> | <p>アプリケーションのパラメータを指定します。各パラメータには、二重引用符で囲まれた名前と値が必要です。</p> |
| ステップ 8 | <p><code>script name [description "description"]</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# script myscript.aef description "My New Script"</pre> | <p>スクリプトの名前と、オプションの説明を指定します。説明は二重引用符で囲む必要があります。説明を指定しない場合、システムは説明に <i>name</i> 値を使用します。</p> |
| ステップ 9 | <p><code>enabled</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# enabled</pre> | <p>アプリケーションをシステムにアクセスできるようにします。</p> |
| ステップ 10 | <p><code>end</code></p> <pre>se-10-0-0-0(config-application)# end</pre> | <p>アプリケーション設定モードを終了します。</p> |

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|---------|---|---|
| ステップ 11 | <code>exit</code> <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code> | 設定モードを終了します。 |
| ステップ 12 | <code>show ccn scripts</code> <code>se-10-0-0-0# show ccn scripts</code> | 設定されたスクリプトの名前と説明を表示します。 |
| ステップ 13 | <code>show ccn application</code> <code>se-10-0-0-0# show ccn application</code> | 設定された各アプリケーションの詳細を表示します。 |
| ステップ 14 | <code>copy running-config startup-config</code> <code>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</code> | コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。 |

例

次の例は、**show ccn scripts** の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn scripts
```

```
Name:                               myscript.aef
Description:                         My New Script
se-10-0-0-0#
```

次の例は、**show ccn application** の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn application
```

```
Name:                               myscript
Description:                         my application
Script:                              myscript.aef
ID number:                           2
Enabled:                              yes
Maximum number of sessions:          8
Retries:                              5
WelcomePrompt:                       Welcome.wav
se-10-0-0-0#
```

アプリケーションに対する複数のトリガーの設定

ネットワークでは、1つ以上の Cisco Unity Express アプリケーションに対して追加のトリガーが必要になる場合があります。たとえば、お客様が企業に問い合わせるときに、複数の電話番号をダイヤルできる場合があります。これらの電話番号に着信すると、自動受付アプリケーションがアクティブになります。

追加のトリガーを設定するには、この手順を使用します。各トリガーは、JTAPI ルート ポイントと一致する必要があります。Cisco Unity Express にトリガーを設定する場合は、ルート ポイントが Cisco CallManager に存在することを確認します。

Cisco Unity Express では、アプリケーション全体で最大 8 つのトリガーがサポートされています。この最大値は NM と AIM の両方に適用されます。

トリガー間のポート共有

各トリガーには、**maxsessions** 値が割り当てられます。P.68 の「アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有」で説明するガイドラインに加え、もう 1 項目を考慮する必要があります。

すべてのトリガーに関する **maxsessions** 値の合計がアプリケーションの **maxsessions** 値を超える場合、アプリケーションに同時にアクセスできる発信者の最大数は、アプリケーションの **maxsession** 値によって決まります。

たとえば、モジュールに 8 つのポートがあり、自動受付アプリケーションに 5 という **maxsessions** 値を割り当てたとします。自動受付アプリケーションには 2 つのトリガーがあります。1 つのトリガーに 2 という **maxsessions** 値を設定し、もう 1 つのトリガーに 4 という **maxsessions** 値を設定します。自動受付アプリケーションに同時にアクセスできる発信者の最大数は 6 ではなく、5 になります。

一方、1 つのトリガーに 2 という **maxsessions** 値を設定し、もう 1 つのトリガーに 2 という **maxsessions** 値を設定したとします。アプリケーションへの同時発信者の最大数は 5 ではなく、4 になります。

前提条件

トリガーを設定するには、次の情報が必要です。

- アプリケーションを起動する電話番号。この番号は、ボイスメール、自動受付、およびグリーティング管理システムの番号とは異なる必要があります。
- タイムアウトして通話を切断するまでシステムが発信者の応答を待つミリ秒単位の時間数。
- プロンプトに使用する言語。Release 2.1 では、システムにインストールされている言語は 1 つだけで、変更はできません。
- トリガーに同時にアクセスできる最大発信者数または最大セッション数。

概略手順

1. **config t**
2. **ccn trigger {sip | jtapi} phonenumber number**
3. **application string**
4. **default parameter**
5. **idletimeout time**
6. **locale language**
7. **maxsessions number**

8. `no parameter`
9. `enabled`
10. `end`
11. ステップ 2 ~ 10 を繰り返して、さらにこのアプリケーションのトリガーを設定します。
12. `exit`
13. `show ccn trigger`
14. `copy running-config startup-config`

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| ステップ 2 | <pre>se-10-0-0-0# config t ccn trigger {sip jtapi} phonenumber number se-10-0-0-0(config)# ccn trigger sip phonenumber 50150 se-10-0-0-0(config)# ccn trigger jtapi phonenumber 50160</pre> | アプリケーションを起動するトリガーとして機能する電話番号を指定し、トリガー設定モードを開始します。 <i>number</i> 値は、Cisco CallManager に設定された JTAPI ルート ポイントと一致する必要があります。 |
| ステップ 3 | <pre>application string se-10-0-0-0(config-trigger)# application myapplication</pre> | 電話番号がダイヤルされたときに起動するアプリケーションの名前を指定します。起動されたアプリケーションは、適切なアプリケーションスクリプトを起動します。このアプリケーション名は、 ccn application name コマンドで設定された名前と一致する必要があります。 |
| ステップ 4 | <pre>default parameter se-10-0-0-0(config-trigger)# default idletimeout se-10-0-0-0(config-trigger)# default maxsessions</pre> | <p>(オプション) アプリケーション パラメータをスクリプト定義のデフォルト値にリセットします。Cisco Unity Express システム パラメータに対して default コマンドを使用すると、次の効果が得られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • default application : 効果なし。 • default enabled : アプリケーションを使用可能にします。 • default idletimeout : 5000 (5 秒) を使用します。 • default locale : システム デフォルトを使用します。 • default maxsessions : Cisco Unity Express モジュール上のポートの数を使用します。ポートの最大数については、P.16 の「ソフトウェア ライセンスおよび工場設定される制限」を参照してください。 |
| ステップ 5 | <pre>idletimeout time se-10-0-0-0(config-trigger)# idletimeout 500</pre> | タイムアウトして通話を切断するまで発信者の応答を待つミリ秒単位の時間数を指定します。 |

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|---------|---|---|
| ステップ 6 | <pre>locale language</pre> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# locale en_US</pre> | <p>発信者に再生するプロンプトで使用する言語を指定します。Release 2.1 では、システムにインストールされている言語は 1 つだけで、変更はできません。</p> |
| ステップ 7 | <pre>maxsessions number</pre> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# maxsessions 3</pre> | <p>トリガーに同時にアクセスできる最大発信者数を指定します。この値の割り当てに関するガイドラインについては、P.159 の「トリガー間のポート共有」を参照してください。</p> |
| ステップ 8 | <pre>no parameter</pre> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# no maxsessions</pre> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# no maxsessions</pre> | <p>(オプション) <i>parameter</i> 値を削除するか、無効にします。Cisco Unity Express システム パラメータに対して no コマンドを使用すると、次の効果が得られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • no application : 効果なし。 • no enabled : アプリケーションを使用不可にします。 • no idletimeout : 効果なし。 • no locale : システム デフォルトを使用します。 • no maxsessions : 値を 0 に設定します。 |
| ステップ 9 | <pre>enabled</pre> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# enabled</pre> | <p>トリガーを有効にします。</p> |
| ステップ 10 | <pre>end</pre> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# end</pre> | <p>トリガー設定モードを終了します。</p> |
| ステップ 11 | <p>ステップ 2 ~ 10 を繰り返して、さらにこのアプリケーションのトリガーを設定します。</p> | <p>—</p> |
| ステップ 12 | <pre>exit</pre> <pre>se-10-0-0-0(config)# exit</pre> | <p>設定モードを終了します。</p> |
| ステップ 13 | <pre>show ccn trigger</pre> <pre>se-10-0-0-0# show ccn trigger</pre> | <p>設定されたトリガーすべてのパラメータ値を表示します。</p> |
| ステップ 14 | <pre>copy running-config startup-config</pre> <pre>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</pre> | <p>コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。</p> |

例

次の設定例では、ボイスメールアプリケーションに2つのトリガーが設定されています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# ccn trigger sip phonenumber 50150
se-10-0-0-0(config-trigger)# application voicemail
se-10-0-0-0(config-trigger)# idletimeout 500
se-10-0-0-0(config-trigger)# maxsessions 4
se-10-0-0-0(config-trigger)# enabled
se-10-0-0-0(config-trigger)# end
se-10-0-0-0(config)#
se-10-0-0-0(config)# ccn trigger jtapi phonenumber 50160
se-10-0-0-0(config-trigger)# application voicemail
se-10-0-0-0(config-trigger)# idletimeout 1000
se-10-0-0-0(config-trigger)# maxsessions 8
se-10-0-0-0(config-trigger)# enabled
se-10-0-0-0(config-trigger)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
```

show ccn trigger コマンドの出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show ccn trigger

Name:                               50150
Type:                                SIP
Application:                         voicemail
Locale:                              en_US
Idle Timeout:                        500
Enabled:                             yes
Maximum number of sessions:          4

Name:                               50160
Type:                                JTAPI
Application:                         voicemail
Locale:                              en_US
Idle Timeout:                        1000
Enabled:                             yes
Maximum number of sessions:          8
se-10-0-0-0#
```

ホスト名の設定

ホスト名は、ソフトウェアインストール後のプロセスで設定されています。ホスト名を変更するには、この手順を使用します。

概略手順

1. `config t`
2. `hostname hostname`
3. `exit`
4. `show hosts`
5. `copy running-config startup-config`

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# config t</code> | |
| ステップ 2 | <code>hostname hostname</code> | ローカル Cisco Unity Express システムを識別するホスト名を指定します。ホスト名の中にドメイン名を含めないでください。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config)# hostname mainhost</code> <code>mainhost(config)# no hostname</code> | Cisco Unity Express プロンプトは、ホスト名を反映するように変更されます。ホスト名を入力しない場合、プロンプトは「se」と Cisco Unity Express ネットワーク モジュールの IP アドレスを使用して作成されます。 |
| ステップ 3 | <code>exit</code> | 設定モードを終了します。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code> | |
| ステップ 4 | <code>show hosts</code> | システムに設定されたホスト サーバを表示します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# show hosts</code> | |
| ステップ 5 | <code>copy running-config startup-config</code> | コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。 |
| | <code>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</code> | |

例

次のコマンドは、ホスト名を設定します。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# hostname ca-west
ca-west(config)# exit
ca-west#
```

show hosts コマンドの出力は、次の例のようになります。

```
ca-west# show hosts

Hostname:      ca-west
Domain:       myoffice
DNS Server1:  10.100.10.130
DNS Server2:  10.5.0.0
ca-west#
```

DNS サーバの設定

DNS サーバと IP アドレスは、ソフトウェア インストール後のプロセスで設定されています。サーバ名と IP アドレスを変更するには、この手順を使用します。

概略手順

1. **config t**
2. **ip domain-name** *dns-server-name*
3. **ip name-server** *ip-address* [*ip-address*] [*ip-address*] [*ip-address*]
4. **exit**
5. **show ip route**
6. **copy running-config startup-config**

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|---|-------------------------------|
| ステップ 1 | config t | 設定モードを開始します。 |
| | <pre>se-10-0-0-0# config t</pre> | |
| ステップ 2 | ip domain-name <i>dns-server-name</i> | DNS サーバのドメイン名を指定します。 |
| | <pre>se-10-0-0-0(config)# ip domain-name mycompany.com</pre> | |
| ステップ 3 | ip name-server <i>ip_address</i> [<i>ip-address</i>] [<i>ip-address</i>] [<i>ip-address</i>] | DNS サーバの IP アドレスを 4 つまで指定します。 |
| | <pre>se-10-0-0-0(config)# ip name-server 192.168.0.5 se-10-0-0-0(config)# ip name-server 192.168.0.5 192.168.0.10 192.168.0.12 192.168.0.20</pre> | |
| ステップ 4 | exit | 設定モードを終了します。 |
| | <pre>se-10-0-0-0(config)# exit</pre> | |
| ステップ 5 | show ip route | IP ルートの宛先、ゲート、およびマスクを表示します。 |
| | <pre>se-10-0-0-0# show ip route</pre> | |

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 6 | <pre>copy running-config startup-config se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</pre> | コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。 |

例

次のコマンドは、DNS サーバを設定します。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# ip domain-name myoffice
se-10-0-0-0(config)# ip name-server 10.100.10.130 10.5.0.0
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
```

show ip route コマンドの出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show ip route

          DEST                GATE                MASK IFACE
10.100.6.9          0.0.0.0          255.255.255.0 eth1
172.16.0.0          0.0.0.0                255.0.0.0 lo
   0.0.0.0          10.100.6.9          0.0.0.0 eth1
se-10-0-0-0#
```

NTP サーバの設定

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) を設定するには、GUI オプションまたは CLI コマンドを使用するか、ソフトウェア インストール後のプロセスで行います。Cisco Unity Express では、最大 3 つの NTP サーバを使用できます。NTP サーバを追加または削除するには、この手順を使用します。

NTP サーバの追加

NTP サーバを指定するには、その IP アドレスまたはホスト名を使用します。

- IP アドレスを使用する場合、NTP サーバを参照するときは、常にその IP アドレスを使用する必要があります。ホスト名を使用してその NTP サーバを参照することはできません。
- ホスト名を使用する場合、NTP サーバを参照するときは、常にそのホスト名を使用する必要があります。IP アドレスを使用してその NTP サーバを参照することはできません。

Cisco Unity Express は、DNS サーバを使用して、ホスト名を IP アドレスに解決し、その IP アドレスを NTP サーバとして格納します。DNS がホスト名を複数の IP アドレスに解決した場合、Cisco Unity Express は、IP アドレスの中からまだ NTP サーバとして指定されていないものを 1 つランダムに選択します。

NTP サーバの 1 つのホスト名に複数の IP アドレスを設定する場合は、同じホスト名を使用して設定手順を繰り返します。繰り返すたびに、NTP サーバが残りの IP アドレスに割り当てられます。

概略手順

1. `config t`
2. `ntp server {hostname | ip-address} [prefer]`
3. `exit`
4. `show ntp status`
5. `show ntp configuration`
6. `copy running-config startup-config`

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| ステップ 2 | <pre>se-10-0-0-0# config t ntp server {hostname ip-address} [prefer]</pre> <pre>se-10-0-0-0(config)# ntp server 10.0.3.4 se-10-0-0-0(config)# ntp server 10.0.10.20 prefer</pre> | NTP サーバの名前または IP アドレスを指定します。 複数のサーバを設定する場合は、サーバに prefer アトリビュートを使用してから、他のサーバを設定します。 |
| ステップ 3 | <code>exit</code> | 設定モードを終了します。 |
| | <pre>se-10-0-0-0(config)# exit</pre> | |

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|---|---|
| ステップ 4 | <code>show ntp status</code> se-10-0-0-0# <code>show ntp status</code> | NTP サブシステムの状態を表示します。 |
| ステップ 5 | <code>show ntp configuration</code> se-10-0-0-0# <code>show ntp configuration</code> | 設定されている NTP サーバの状態を表示します。 |
| ステップ 6 | <code>copy running-config startup-config</code> se-10-0-0-0# <code>copy running-config startup-config</code> | コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。 |

例

次のコマンドは、NTP サーバを設定します。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# ntp server 10.100.6.9
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
```

`show ntp status` コマンドの出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show ntp status

NTP reference server 1:      10.100.6.9
Status:                     sys.peer
Time difference (secs):     3.268110099434328E8
Time jitter (secs):         0.1719226837158203
se-10-0-0-0#
```

次の例では、NTP サーバのホスト名が 172.16.10.1 と 172.16.10.2 の 2 つの IP アドレスを指すように設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# ntp server NTP.mine.com
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# ntp server NTP.mine.com
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
```

`show ntp status` コマンドの出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show ntp status

NTP reference server 1:      172.16.10.1
Status:                     sys.peer
Time difference (secs):     3.268110099434328E8
Time jitter (secs):         0.1719226837158203

NTP reference server 1:      172.16.10.2
Status:                     sys.peer
Time difference (secs):     3.268110099434328E8
Time jitter (secs):         0.1719226837158203
se-10-0-0-0#
```

NTP サーバの削除

NTP サーバを削除するには、その IP アドレスまたはホスト名を使用します。

- IP アドレスを使用して NTP サーバが設定されている場合は、その IP アドレスを使用してサーバを削除します。ホスト名を使用してサーバを削除することはできません。
- ホスト名を使用して NTP サーバが設定されている場合は、そのホスト名を使用してサーバを削除します。IP アドレスを使用してサーバを削除することはできません。

NTP サーバのホスト名に複数の IP アドレスが関連付けられている場合、削除する IP アドレスを指定することはできません。Cisco Unity Express は DNS サーバからの応答に基づいて IP アドレスを削除するため、設定されている NTP サーバの IP アドレスのうち、どれが削除されるかを保証することはできません。

特定の IP アドレスを持つ NTP サーバを削除する場合は、削除手順を繰り返してすべての NTP サーバを削除し、正しい IP アドレス情報を使用して DNS サーバを更新します。次に、NTP サーバを繰り返し追加して、NTP サーバを適切な数の IP アドレスに割り当てます。

概略手順

1. `config t`
2. `no ntp server {hostname | ip-address}`
3. `exit`
4. `show ntp status`
5. `show ntp configuration`
6. `copy running-config startup-config`

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|-------------------------------------|
| ステップ 1 | <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# config t</code> | |
| ステップ 2 | <code>no ntp server {hostname ip-address}</code> | 削除する NTP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config)# no ntp server 10.0.3.4</code> <code>se-10-0-0-0(config)# no ntp server myhost</code> | |
| ステップ 3 | <code>exit</code> | 設定モードを終了します。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code> | |
| ステップ 4 | <code>show ntp status</code> | NTP サブシステムの状態を表示します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# show ntp status</code> | |
| ステップ 5 | <code>show ntp configuration</code> | 設定されている NTP サーバの状態を表示します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# show ntp configuration</code> | |

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 6 | <pre>copy running-config startup-config se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</pre> | コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。 |

NTP サーバ情報の表示

次のコマンドを使用すると、NTP サーバの構成情報とステータスを表示できます。

- **show ntp associations**
- **show ntp server**
- **show ntp source**

外部 syslog サーバの設定

Cisco Unity Express は、システムのアクティビティを説明するメッセージを取り込みます。メッセージを表示するには、CLI コマンドを使用します。GUI からメッセージは表示できません。

アクティビティは、システムの機能に及ぼす影響に応じて、次の 4 つの重大度に分類されています。

- 情報：メッセージは、通常のシステム アクティビティを説明します。このメッセージには、デバッグ メッセージ、情報メッセージ、および通知メッセージなどがあります。
- 警告：メッセージは、通常以外のアクティビティが発生していることを警告します。Cisco Unity Express システムは引き続き機能します。
- エラー：メッセージは、システム エラーが発生したことを示します。Cisco Unity Express システムは、機能を停止する場合があります。
- 致命的：メッセージは、システムが重大な状況、警戒を要する状況、または緊急事態にあることを説明します。Cisco Unity Express システムはすでに機能を停止しています。

これらのメッセージは、収集された後、次の 3 つのいずれかに出力されます。

- Messages.log ファイル：このオプションがデフォルトです。ファイルは、すべてのシステム メッセージを含み、Cisco Unity Express モジュールのハードディスク上の /var/log/messages.log に格納されます。トラブルシューティングやエラー報告のために検討するときは、メッセージを印刷したり、コンソール上に表示したり、またはサーバにコピーしたりできます。
- コンソール：**show log name messages.log** コマンドを使用すると、messages.log ファイルが表示されます。**log console info** コマンドを使用すると、システム メッセージが発生後すぐに表示されます。
- 外部システム ログ (syslog) サーバ：Cisco Unity Express は、メッセージを別のサーバにコピーし、そのサーバのハードディスク上のファイルに収集します。どのディレクトリにメッセージログが保存されるかは、外部サーバ上の syslog デーモン設定によって決まります。

外部サーバは、Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスのポート 514 で UDP をリスンするように設定されている必要があります。

前提条件

指定されたログ サーバのホスト名または IP アドレスが必要です。

概略手順

1. **config t**
2. **log server address {IP-address | hostname}**
3. **exit**
4. **show running-config**

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|---|---|
| ステップ 1 | <code>config t</code> se-10-0-0-0# <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| ステップ 2 | <code>log server address {IP-address hostname}</code> se-10-0-0-0(config)# <code>log server address 10.187.240.31</code> se-10-0-0-0(config)# <code>log server address logpc</code> | ログサーバとして指定された NTP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。 |
| ステップ 3 | <code>exit</code> se-10-0-0-0(config)# <code>exit</code> | 設定モードを終了します。 |
| ステップ 4 | <code>show running-config</code> se-10-0-0-0# <code>show running-config</code> | システム コンフィギュレーションを表示します。これには、設定されたログサーバが含まれます。 |

例

`show running-config` コマンドの出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show running-config

clock timezone America/Los_Angeles

hostname se-10-0-0-0

ip domain-name localdomain

ntp server 10.100.60.1
.
.
log server address 10.100.10.210

voicemail default mailboxsize 3000
voicemail capacity time 6000

end
```

クロック タイム ゾーンの設定

ローカル Cisco Unity Express モジュールのタイム ゾーンは、ソフトウェア インストール後のプロセスで設定されています。モジュールのタイム ゾーンを変更するには、この手順を使用します。

Cisco Unity Express は自動的に、選択されたタイム ゾーンに基づいて、クロックをサマータイムに更新します。

概略手順

1. `config t`
2. `clock timezone timezone`
3. `exit`
4. `show clock detail`
5. `copy running-config startup-config`

詳細手順

| | コマンドまたは操作 | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | <code>config t</code> | 設定モードを開始します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# config t</code> | |
| ステップ 2 | <code>clock timezone <i>timezone</i></code> | ローカル タイム ゾーンを指定します。 <i>timezone</i> 引数の値を入力するには、タイム ゾーンを表すフレーズを知っている必要があります。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config)# clock timezone America/Los_Angeles</code> | フレーズが不明の場合は、 Enter キーを押します。タイム ゾーンを選択できる一連のメニューが表示されます。 |
| ステップ 3 | <code>exit</code> | 設定モードを終了します。 |
| | <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code> | |
| ステップ 4 | <code>show clock detail</code> | タイム ゾーン、時間分解能、および現在の時刻を表示します。 |
| | <code>se-10-0-0-0# show clock detail</code> | |
| ステップ 5 | <code>copy running-config startup-config</code> | コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。 |
| | <code>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</code> | |

例

次のコマンドは、クロック タイム ゾーンを設定します。

```

se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# clock timezone
Please identify a location so that time zone rules can be set correctly.
Please select a continent or ocean.
1) Africa      4) Arctic Ocean 7) Australia   10) Pacific Ocean
2) Americas    5) Asia      8) Europe
3) Antarctica  6) Atlantic Ocean 9) Indian Ocean
#? 2

Please select a country.
 1) Anguilla           18) Ecuador           35) Paraguay
 2) Antigua & Barbuda 19) El Salvador      36) Peru
 3) Argentina         20) French Guiana    37) Puerto Rico
 4) Aruba             21) Greenland        38) St Kitts & Nevis
 5) Bahamas          22) Grenada          39) St Lucia
 6) Barbados         23) Guadeloupe       40) St Pierre & Miquelon
 7) Belize            24) Guatemala        41) St Vincent
 8) Bolivia           25) Guyana            42) Suriname
 9) Brazil            26) Haiti             43) Trinidad & Tobago
10) Canada            27) Honduras         44) Turks & Caicos Is
11) Cayman Islands    28) Jamaica          45) United States
12) Chile             29) Martinique       46) Uruguay
13) Colombia         30) Mexico            47) Venezuela
14) Costa Rica       31) Montserrat       48) Virgin Islands (UK)
15) Cuba             32) Netherlands Antilles 49) Virgin Islands (US)
16) Dominica         33) Nicaragua
17) Dominican Republi 34) Panama
#? 45

Please select one of the following time zone regions.
 1) Eastern Time
 2) Eastern Time - Michigan - most locations
 3) Eastern Time - Kentucky - Louisville area
 4) Eastern Time - Kentucky - Wayne County
 5) Eastern Standard Time - Indiana - most locations
 6) Eastern Standard Time - Indiana - Crawford County
 7) Eastern Standard Time - Indiana - Starke County
 8) Eastern Standard Time - Indiana - Switzerland County
 9) Central Time
10) Central Time - Michigan - Wisconsin border
11) Central Time - North Dakota - Oliver County
12) Mountain Time
13) Mountain Time - south Idaho & east Oregon
14) Mountain Time - Navajo
15) Mountain Standard Time - Arizona
16) Pacific Time
17) Alaska Time
18) Alaska Time - Alaska panhandle
19) Alaska Time - Alaska panhandle neck
20) Alaska Time - west Alaska
21) Aleutian Islands
22) Hawaii
#? 16

The following information has been given:

    United States
    Pacific Time

Therefore TZ='America/Los_Angeles' will be used.
Is the above information OK?
1) Yes
2) No
#? 1

```

show clock detail コマンドの出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show clock detail

19:20:33.724 PST Wed Feb 4 2004
time zone:                        America/Los_Angeles
clock state:                       unsync
delta from reference (microsec):    0
estimated error (microsec):         175431
time resolution (microsec):         1
clock interrupt period (microsec):  10000
time of day (sec):                  732424833
time of day (microsec):              760817
```